

## 事例研究報告

# 高等部知的障がいの生徒が 自発的な行動を増やすための指導 (朝の活動・余暇活動)

# 生徒の実態

<個別の事例に対する取組>

## ○実態

- ・高等部生徒 知的障がい
- ・発達年齢 3歳1ヶ月
- ・主な発語：おちゃ、しっこ（トイレ）、ママ、パパ、はーい、ばいばい、あつい、おわり
- ・多動であり、0時を超えて就寝することも多い
- ・今年度より教員に物を投げる、授業の離席、奇声、校内を逃げ回る、飛び跳ね、個室に入室し施錠する等、不安定な状態が5月上旬まで発現
- ・5月中旬より落ち着き始めるが週に1回程、奇声や離席が目立つ
- ・タブレットで落ち着くことができるが、その他に余暇が無い
- ・登校後の着替え等は予定表の提示と教員の言葉かけて行動できるが、  
**自発的に行なうことが難しく時間が掛かる**

# 教員の願い

## ①朝の活動

→着替え等の朝の活動を、スケジュールに沿って  
自発的に行動できるようになって欲しい

## ②余暇活動

→タブレットの他に、1人で落ち着いて過ごせる余暇活動を確立させたい  
※卒業後、タブレットが使えない環境で生活する可能性があるため

# 指導目標の案

(朝の活動)

- ①朝の活動(かばん・連絡帳・着替え)を、  
10分以内に行うことができる。

(余暇活動)

- ②余暇活動として、  
10分以上教室で過ごすことができる。

# 指導前の記録（朝の活動）

## 朝の活動でかかった時間

(分)

8

7

6

5

4

3

2

1

0

かばん 連絡帳 着替え

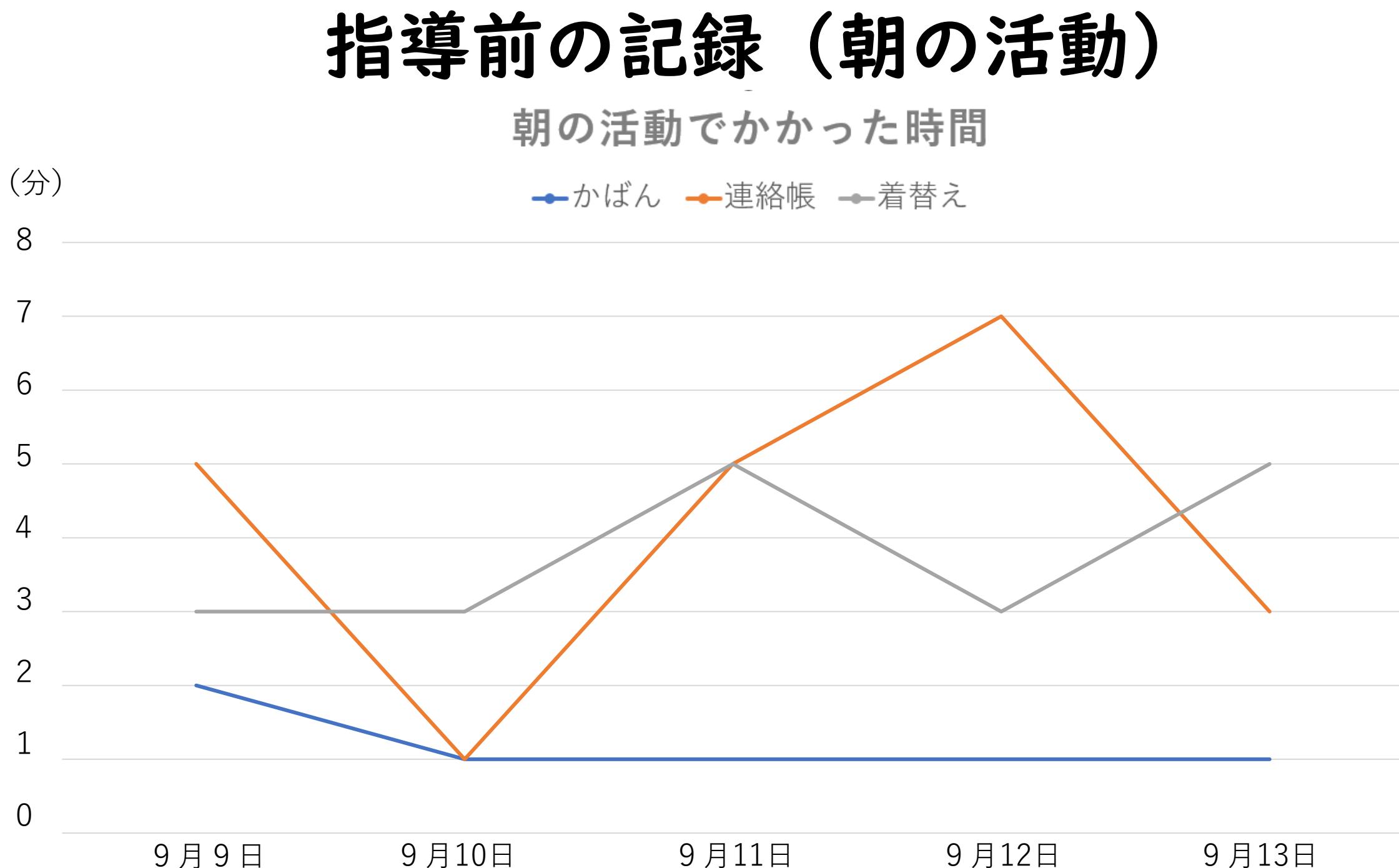
9月9日

9月10日

9月11日

9月12日

9月13日



# 現状の記録（余暇活動）

余暇活動	平均時間	
タブレット	20分以上	 笑顔、よく画面に集中している。
スライム	3分	 言葉かけを続けると取り組むが、すぐに離席する。
ドミノ	5分	
ブロックの分解	5分	 ある程度1人で取り組むが、笑顔は見られず、作業的に行う。
紐通し	5分	

タブレットの他に余暇がない。

# 助言内容

## ○朝の活動について

- ・本人はスケジュールがなくても、流れを把握できている。
- ・教員の反応をよく見ていて。活動が進まない時は、教員に話しかけたりタッチを求めたりするなど関わりを求めている。

→教員が**積極的に支援を行い、**  
**行動に対しての称賛を増やす必要がある。**

## ○余暇活動について

- ・一人で遊ぶためには、遊び方を知る必要がある。  
本人だけでなく教員も遊びに参加し、**遊びを楽しむ経験が必要。**
- ・スケジュールに「遊び」の記載があり、課題の認識になっている。

# 助言を受けての見直し及び手続き

## ○朝の活動について

助言前) 自発的に行動するまで見守り、適宜言葉かけを行う。

助言後) 積極的に言葉かけ・指さし等の支援を行う。

取り組むことができたら、ハイタッチ等で称賛する。

## ○余暇について

助言前) スケジュールに「遊び(余暇)」と記載。

助言後) スケジュールから「遊び」を削除。

→朝の活動終了後、教員と一緒に遊ぶ時間を設ける。

お手本を見せ、楽しみ方を理解するよう促す。

# 朝の活動にかかった時間を、①かばん②連絡帳③着替え に分けて記録

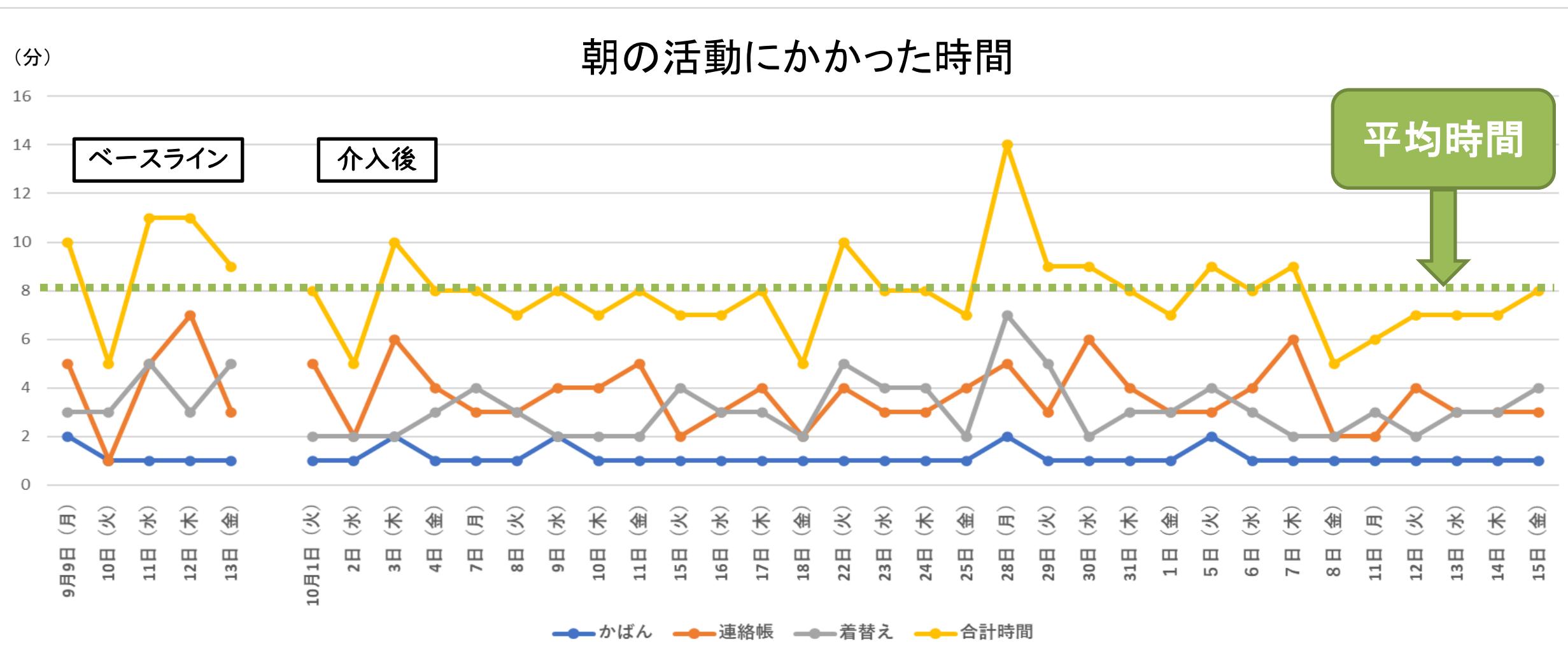
	9月9日(月)	10日(火)	11日(水)	12日(木)	13日(金)		10月1日(火)	2日(水)	3日(木)	4日(金)	7日(月)
かばん	2								2		
連絡帳	5		5	7	3		5	2	6	4	3
着替え	3	3	5	3	5		2	2	2	3	4
合計時間	10	5	11	11	9		8	5	10	8	8

単位(分)

①ベースライン

②介入後

# 指導前後の記録（朝の活動）



介入後は、平均時間を下回ることが増えた。

# 助言後の余暇活動の記録

	10/4(金)	10/10(木)	10/18(金)	10/22(火)	11/6(水)
種類	トランポリン	トランポリン	トランポリン	三輪車	三輪車
対応	教員と一緒に飛んで遊ぶ。	教員と飛んだあと、1人で飛ばして観察。	道具室まで一緒に取りに行き、片付けも行う。	道具室に向かい、自分で手に取る。「いいよ」の声かけで高等部棟まで漕いで行く。	タブレットを教室で視聴させ、教員が三輪車を提供。
反応	トランポリンを出してすぐ飛び始める。	本人から教員の手をとり笑顔で飛ぶ。	落ち着いており、トランポリンを転がしながら持って行く。同様に飛ぶ。	常に、「ははは」と笑いながら漕ぐ。起用にJターンができる。	前回同様、すぐまたがり全力で漕ぐ。
表情	開始から最後まで笑いながらハイテンションであった。	先日同様、楽しそうにして飛ぶ。	3日間で一番の跳躍を見せる。本人も高く飛べているのに驚いている表情を見せる。	トランポリンと同じくらい楽しそうにする。常に笑顔が見られる。	笑顔。
褒め方・工夫	「楽しいな！」 「すごい飛ぶやん！」等、声をかける。	「楽しいな！」 「すごい飛ぶやん！」等、声をかける。	「楽しいな！」 「すごい飛ぶやん！」等、声をかける。	「めっちゃ早い！」等声をかける。併走して一緒に走る。	「めっちゃ早い！」等声をかける。併走して一緒に走る。
時間	教員が「終わり」というまで飛び続ける。 5分以上飛ぶ。	急遽、活動が入り3分程で終わる。	4分程飛ぶ。1分でトランポリンから降りるも「ジャンプ。」と教員が言うと飛び始める。	走るコースの設定や、教員が一緒だと5分以上は活動できる。	5分程度。

助言前

余暇活動	平均時間	表情と様子	自発的な行動
スライム	3分	真顔	離席、教員にタッチを求める
紐通し	5分	真顔 集中している	離席、道具を片付けようとする

助言後

トランポリン	4分	笑顔 声を出して笑う	教員不在でもジャンプして遊ぶ 指さして遊びたいことを伝える
三輪車	5分	笑顔 声を出して笑う	「三輪車」という言葉を聞いて自ら準備を始める

集中時間は少ないが、内容によっては表情や行動に変化が見られた。

# 実践を通しての気付き

## (朝の活動)

- 自発的な行動を促すためには、  
できたことに対して**称賛を積極的に行う必要がある。**
- 活動を促す言葉かけと活動後の称賛で、  
**対応に変化をつけることが必要である。**

## (余暇活動)

- 人との関わりを求める生徒には、  
**教員と一緒に遊び方を学ぶ過程が必要である。**
- 身体を使った活動を好むことが分かった。